



宮内天王社由緒
 主祭神 素盞鳴尊 神武天王
 相殿 大山津見命 天受女命 伊邪那美命
 猿田彦命 宇迦酒魂命
 社殿によれば神武天皇御東征の折立寄られたところとして廣田社山の麓に祀られ天王宮とよばれていました。が天正年中（一五七三）津波によって破損し現在地に移されたと古書にも誌されています。
 また当社は古来嚴島神社兼帯の一社であつて嚴島の祠宮が来てお祭りを行ったと伝えられ社殿や鳥居を造る木材も嚴島から給されていきました。また古くは別当光代寺があつたが慶長の末（一六一五頃）に廢せられた。
 明治以後宮内村上組の氏神社として社格も村社となり上組内の神社を合祀して相殿にお祀りし八坂神社と改めましたが昭和四十四年に氏子の皆様の要望により宮内天王社に再度改稱して今日に至っております。
 平成五年十二月 宮司 林 新誌す

奉獻 宮内砂原 山根 龍雄

